

東海第2工事で施工不良

内部告発受け共産党が質問書

原電認め、工事中断

日本共産党茨城県委員会（上野高志委員長）は16日、県庁で会見を開き、停止中の日本原子力発電東海第2原発（東海村）の再稼働に向けた事故対策工事である防振壁の基礎部分について施工不良の疑いがあると明らかにしました。原電は同日、同原発の「近況について」とする文書を公表し、事実を認め、「今後、適切に対応する」としました。

会見には江尻加那郎議員、

大宮義昭（東海村議）、花岡
進那珂市議、川澄敏子（教
町議）、高橋誠一郎（茨城
一）候補が同席しました。



防振壁の工費の不備について
説明する（左から）江尻、
大宮議員、16日、茨城県庁

会見で江尻氏は、共産党
と本紙に寄せられた同原発
構内で作業していた工事関
係者の証言として、▽取水
口部分の防振壁の基礎とな
る「地中連続壁」でコン
クリートが正しく打設されて
いない▽基礎の鉄筋が正し

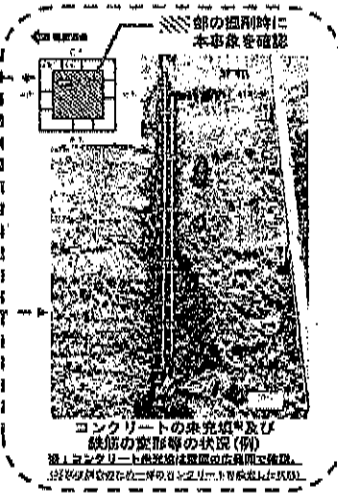
い形状で組まれている▽
基礎が基礎に到達していな
い▽基礎をこける上での
「変位」の比値が正しく
保たれていなかったなど
の問題を指摘。「これまで
工事が順調であるかのよう
に説明していたが現実は違
う。住民や自治体に対して
も不誠実と問わざるを得な
い」と指摘し、原電に説明
を求めました。

原電は先月22日、信託
を受け、原電に防振壁を補
出。事実について、回答で
ともな工事中止を求めて
いました。

原電は前出の文書で6月
に「コンクリートの未充
填及び鉄筋の形状等が確認
された」と報告。共産党が
指摘した施工不良の事実を
認めました。同日、共産党
への「調査」で防振壁の工
事について「中断してら
る」と報告しました。

原電は共産党の会見の直
後、「工事の過程で、何
かが異なったため原因を調
査している段階で、今回の
事故は想定していた」と説
明しました。

同原発は現在、来年9月
の再稼働をめざして防振壁
などの工事を継続。工期を
2回証明しています。前出
の工事関係者は現在の工期
ありきの工事の進め方を懸
念しています。



防振壁の工費の不備について
説明する（左から）江尻、
大宮議員、16日、茨城県庁

コンクリートの充填状況及び
鉄筋の形状等の状況（前）
地中連続壁にコンクリートが正しく打設されて
いない▽基礎の鉄筋が正し